

# 第 32 回日本美容皮膚科学会総会・学術大会 スポンサードセミナー 4

炭酸ガスフラクショナルレーザー

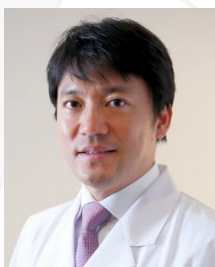
## 「スマートサイド・スクエア」の 工学的・臨床的検証

日時：2014年7月13日(日) 10:00～11:00

会場：東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートC会場

座長：森脇真一先生(大阪医科大学皮膚科教授)

古村南夫先生(久留米大学皮膚科准教授)



### 「リサーフェシング治療における 炭酸ガスフラクショナルレーザーの進化」

～レーザー工学的解析から検証する～

藤本幸弘先生(クリニックF)



### 光老化皮膚治療

船坂陽子先生(日本医科大学皮膚科准教授)

抄録は裏面に記載



共催：第 32 回日本美容皮膚科学会総会・学術大会

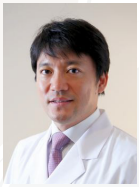


株式会社 DEKA JAPAN

〒107-0062 東京都港区南青山 2-21-37

TEL : 03-5785-2133 E-mail: info@dekajapan.jp

URL : www.dekajapan.jp



## リサーフェシング治療における炭酸ガスフラクショナルレーザーの進化 ～ レーザー工学的解析から検証する ～

**藤本 幸弘** 先生 (クリニック F)

2007年より市場に投入された数多くのフラクショナルCO<sub>2</sub>リサーフェシングレーザーは、当初はダウンタイムと色素沈着が問題視されたものの、機器のスキャナ機能の改良やパラメータの研究など7年の歳月を経て、アジアスキン市場においても安全にリサーフェシング施術ができるようになったと認知がされた。2010年4月に米国アリゾナ州フェニックスで開催された米国レーザー医学会(ASLMS)でニューヨーク州のDr. Bruce Katzが発表した演題は、イタリアDEKA社のスマートサイド・ドットの皮膚の収縮の強さを利用した、新しい上眼瞼挙上術の発表であり、この施術は通称「マドンナリフト<sup>®</sup>」として米国美容市場で広い認知を得た。フラクショナルレーザー機器選択において最も大切なもの

は波長であると思われるが、市場には同じ波長を用いた多くのCO<sub>2</sub>フラクショナルレーザー機器が並び、これらの機能の違いについての明確な発表は無い。付随するパラメータとしては、フルエンス、パワー、照射密度、パルス幅、さらにスキャナの持つ性質とさまざまである。CO<sub>2</sub>レーザーの機器としての特許がここ数年で消滅したために、新たなコンセプトを持った機器が登場した。ガラス管の発振管を利用したスマートサイド・ドットと比較して、パルス波形を自在にコンピューターにて変換できるRF発振管を内蔵したスマートサイド・スクエアを用いて実験を行った。収縮のためのレーザーパラメータを工学モデルを用いて解析し、結果を得たため報告する。

### 経 歴

1995年 信州大学医学部卒業  
1995年 東京大学医学部附属病院 研修医  
2004年 東京大学大学院医学系研究科修了 医学博士授与  
2004年 東京大学医科学研究所附属病院東京大学助手  
2007年 クリニックF 院長  
2013年 東海大学大学院総合理工学研究科修了 工学博士授与

### 所属学会・資格

米国レーザー医学会(ASLMS) Fellow  
米国皮膚科学会(AAD) Member  
欧州皮膚泌尿器科学会(EADV) International Member  
経営管理学修士(MBA, Univ.of Wales)  
工学博士(東海大学大学院総合理工学研究科)



## 光老化皮膚治療

**船坂 陽子** 先生 (日本医科大学皮膚科准教授)

光老化皮膚を改善するには、紫外線により損傷を受けた組織、細胞を除去し、再生する必要がある。治療法としてはレチノイド、ケミカルピーリング、Intense Pulsed Light, ablative もしくは non-ablative の fractional laser、高周波が用いられている。炭酸ガスレーザーを用いた resurfacing は白人では最も治療効果が高いとされるが、日本人では強い炎症後色素沈着が生じ、瘢痕形成のリスクも高いため、ほとんど施行されていない。レベル3のトリクロロ酢酸を用いたピーリン

グは、色素沈着は生じにくいものの、眼周囲などでは瘢痕形成のリスクを伴う。従って眼瞼の若返り効果を求めるにはフラクショナル炭酸ガスレーザー治療が瘢痕形成の懸念なく行える治療法として推奨されている。眼瞼周囲への本治療効果およびフラクショナル炭酸ガスレーザーと高周波を用いた頬のたるみ治療の効果について、我々の施設の結果を交えて紹介する。

### 経 歴

1984年 神戸大学医学部卒業  
1988年 神戸大学医学部皮膚科助手 / 大阪厚生年金病院皮膚科医員  
1989年 米国 Yale 大学医学部皮膚科研究員  
1996年 神戸大学医学部附属病院皮膚科講師  
1996年 米国 Cincinnati 大学医学部皮膚科研究員  
2009年 神戸大学大学院医学研究科内科系講座皮膚科学分野准教授  
2010年 日本医科大学皮膚科准教授

### 資格・役職

日本皮膚科学会認定・皮膚科専門医、  
日本皮膚科学会認定・美容皮膚科・レーザー指導専門医  
日本美容皮膚科学会理事、日本色素細胞学会理事、日本研究皮膚科学会評議員、日本抗加齢医学会評議員 等